京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

◎明治四十四年 紀元二千五百七十一年
定價 一枚金二錢 一ヶ月前金三十錢 三ヶ月前金九十錢 六ヶ月前金一圓八十錢 郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休日(日刊)
廣告料 五號活字十七字詰一行一回金五十錢
發行兼編輯人 高木久太
印刷人 松久静一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話六六三番 振替口座京城四五六番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

雑報

●農具の改良に就て ……三輪商會主任談……

農業を奬勵するは國家を富ます大本にして之れに伴ふ可き吾人の研究すべきは器械なり抑も農を以て建つるの朝鮮にして農具の利鈍は國家經濟の消長に關係あるは論を待たず現今の農事を改良するの方面は實に多數の物である論より農機特許公報を見よ最近四ヶ年間に特許されたる農具の數は通計千三百點平均毎日一個以上の新農具が世に生れ出る割合なり此の趨勢は明に農界新農具の要求を語るのである當會は農界の爲めに之を鑑識するのであるが然し總て農會の有様を見るに實際之等新農具が世に一般使用せらるる者は甚だ少きは遺憾なり新農具は實用に堪ゆるが價値なき爲めか又は歐米農具の如く立派で非ざる爲めかたとへ其の全部が實用に適せずとも新農具の大多數は舊農具よりも有益便益なる點の多きは決して疑を容れぬ處で有と思ふ新農具の多く行はれざる其の理由は農界一般に新出農具を知らしむる機關の乏しきに依るに外ならず先づ一例を揚ぐれば農業の記事論説する新聞雜誌の多くは農具に關して記述する處甚だ少きは現下農會の大缺陥にあらざるなきか農會組合の有志諸君其の新農具の發明者を助け又其の新農具の販賣店を農界に紹介し以て知らしめ農事者の使用を促がし倘新式改良農具發明の實績を進めん事を希望するなり

●暴風雨被害

五日以來の暴風雨に依り平安南道、黄海道は其被害尠からず鎭南浦府碑石洞及ゴウホ洞は雨水滯溜の爲め鮮人家屋六百余戸の浸水を見るに至り消防手は極力排水に努めつゝあり又大同江は十三尺、成川十尺の増水にて目下一時間一尺の増水率なりと而して京義線は黄州黒橋間に故障を生じ平南線も又昨六日午前九時頃より岐陽新地洞間に故障を生じ開通の豫想立たず附近は九尺の増水に浸水百戸、南川は増水八尺交通杜絶の有様にて浸水十二戸、瑞興橋も既に流失し鐵道慶水院方面は交通杜絶、砂里院は浸水三百戸潰家屋三十戸、慶州郡邑浸水百戸崩壞二十二戸人民は高地に避難中なり、殷川は浸水二十一日「コウチイ」流失一戸、信川郡「エンシン」は浸水程度不明なるも人民は他に避難し同地憲兵派遣所は書類を船に積み避難せり海州郡翠堤場浸水五十戸同地川向ひ宿屋浸水の爲め宿泊人二十余名は屋上に避難しあるに依り其救助方法中鮮人一名對岸に渡らんとして川に入りたる儘激流に溺れ行衛不明、同郡龍頭浦は激浪の爲和船二隻破壊電柱一本倒壊、尚海州靑丹間は郵便配送不能にして何れも人畜、農作物の被害多かる見込なりと(七日報)

●木浦港の近状

木浦港の最近の状況を聞くに過般水害の稲作に及ぼしたる影響は案外に尠なく一般農家は本年の米作を樂觀し居れり又一面七月中の暴風雨は各地の棉圃に鮮少ならざる損害を與へたるも天候の快復に比較的迅速なりしと且つ其の手入れによつて漸次生育を見返し其の最も良好なる棉圃に在りては陸地棉、在來棉等にして兩者とも其の開花の狀況最も良好にし以上の如くなるを以て今後天候の順調なるを得ば稲作及棉作共に平作以上の見込なりと尚ほ濟州島に於ける鯖漁は近年稀有の豊漁にして全島の人氣頗る旺盛を極めつゝあり楸子島は八月中旬頃より多少漁繁の期に迫り居れりと云ふ

外事一束

△駐獨 大使微恙に罹り摩洛哥問題交渉四日迄延期せらる假病か眞病か疑ふ可し

△英本 國に謀反したる當時の米國獨立戰爭の際米の爲に戰へる獨軍人スト?ンの銅像米政府より獨皇に贈られ盛なる除幕式と獨米親交の辭あり

△西班 牙政府は半官的文書を以て曰く摩洛哥との協約に進ひアカットル兩方を占領したるも還は決して敵意的性質を帶ぶるものに非ずと辭巧に過

△佛國 食料品騷動今猶繼續し北部は二萬の同盟者之に加り二百の負傷者出

△英國 郵便電信雇人聯合委員會は雇人六万を代表し郵遞總監に對し彼等の

△普國 を調査せん事を要求するに決したりと是同盟罷業の副産的餘波なり

△ウィ ストン大學總長として又政治學者として有名なるウードロウ、ウイルド は紐育州に於て次期米國大統領たるべしの説盛に傳へられつゝあり

△土瑛 伊虎列剌病漫延し何國首都殊に甚し歐洲市場爲に不景氣なりと云ふ

△北京 政府は滿蒙各地の馬賊猖獗其武器精鋭なるを幸とし招致訓練して屯田兵とせば將來の憂を絶ち一擧兩得なりとて趙總督に訓電したりと窮哉

△山東 淫雨連日五穀菓實皆收拾す可からず省民食ふに糧なく買ふに財なし

雑録

●京城廻りの記（四） 錢翠居士投

双輝怒譽樓に及ぶ一は高千閣一客なかりし樓なりしに仲居愴惶二階の障子を開き何物か運ぶの狀あり暫くして登り來し壯夫三人は來客にして則同樓の納税者なりしならん一は白水にして客席の冷むる閑なしと見へ室毎に納税者と美形あり昨白晝春を炎帝に燒き驅肉玉の如き汗を流して苦役し尚一家を糊するに足らざるものと前者に比して人は平等ならざるものと口吻しつゝ樹間の梢を縫ふて南山に向ふ丘上大呼するものあり雲平山平谿を響ゐて傳はり壯なりと雖も之れ食客の苦吟なり更に聲を逃きて劉亮糸の如く餘音嫋々壯快溺くが如きものは横笛を吹くものなり予は消暑に耳を洗ゐ去ると惜めり止まる事数分杖を起して下へ〜三井物産の某氏の階上には能樂の練習酣にして追ふが如く招くが如き吼號夜鳥の聲と和して奥床しかりし南山町を下り翔翠樓の前より花月樓の前を通る何ぞ斗らん翔翠の藝妓部屋の二階より藝妓の爲めに茶を頭上より浴びせられ故意にはあらずもかなと思へども腹立ちの餘り警察へ電話した翌日多分叱られて予の頭痛やしか出來しものと信せり花月の前にて二階より切りに手を打つものあり還は之れ知友巳に登樓し居りて予の通過を見招ぐものと早合點し立止まり伺へば豈斗らん予を招ぐにあらず仲居がアイスクリームを呼びしなりし失敗交々なれば急ゐで本町通りにいでたり

文苑

●歌屑 雲遊霞宿堂主人

○ますらをも二人ならばといひし口のその口べにはなほあはせねども

○椋川は「金より大事」とうたひしぞ今のれなどは智恵すぐれたり

○忠兵衛を今のこの世にあらしめば女どのゝしりて興り死ぬらむ

○秋風吟 野崎小螢

鈴蟲や路細ければ踏みなんに
秋來るも空山徒らに連るのみ
秋の月五右衛門風呂を出て見る
秋雲や虎に羽あり西大門
洗濯の衣の袖より秋の蝉
秋の蝶野飼の牛の大きなる

◎アカシヤの綠葉

臙然たり秋風に腹また痛む
暢達くも秋草ぞ優しき際
師を懐ひ細腕忍ぶや月今宵
宿借りて安樂椅子に秋を讀す
呑氣さに秋の日斜めいさかいす
身の末を美化して虫と泣ん哉
鷄ひねる所立秋ぞ佛心出でぬ
りんかんの美、無く古城秋寂て
劒江の金筋に殘る暑さかな

◎朝鮮の御用新聞も更迭すべし

霧分けて來る跫音に人と知れ
ぼんくらの顔に吹かん秋の風

召使れ初 第百四十四回 黒法師



「流石のれ道どの、れ面目ないかしてれ御覧なされ、この様に俯伏してれ了ひなされたはの」と澤野は心地好げに「れ道どの古句れさし出し御方を盲目にしやうとした御罰は覿面、この惨な様何うでござる」

「眞にれ主さまのれ罰ほど、恐しいものはでござりませぬ」

どつと笑ふ一味の女中。奥方は見るにも堪ねず扇に顔を掩ひたまふ、

「澤野様」と國尾は思はず呼び掛け「このれ懐紙ちよとれ見せなされませ」

「什麼と爲さる」

「相生どの、れ鑑定違ひもあるまいと存ずるが、れ道どの筆跡は、誰よりも私がよく手に掛けあるで、念の爲め一見致さうと存ずるわの」

「ほゝ、やはり御贔負、れ道どのゝ御贔負あらせられござるのう申すまではない、罪人を御贔負あらすと、此方様まで罪過にれ落ちでござるぞの」

「事と品に由つては、罪過を被るも仔細ござりませぬ、只真直に事を糺すが私望みでござります」

「ほゝ、口賢いことをれ云ひぢや、がれ道どの身に就いて、御方様れ口添へは爲らぬ答でござるわの、うれを何故と云はせませ、れ道どのは御方様部屋子、云はゞ母子、依固の沙汰もあらうかと、他人が目を睜て居るおやで有と」澤野は飽くまで憎さげに「余体ならば此方で申し上げるを、御辭退あらすが順當でござるもの、あなたから御催促、この懐紙のれ鑑定など、ようも〳〵真面目らしう云はれたものでござるの、曇つた目に鑑定は爲らぬ、懐紙はこれぢや、それから御覧あらせませ」と懐紙を指頭に摘み上げて、これ見よがしに閃かす、うの咽喉笛に嚙み付きても遣りたきほどなり、されど差し當る場の當然に、國尾は返す詞もなく、手持不沙汰に控ゑたり

「何と皆さま、御方様御前ではござりまするが、我物顔に古句さし上げ、御褒美に預らうとした耻知らずのれ方と同席は穢れ、切角御佳例のれ歌合せに傷付いた上は、今日の御祝儀も是までれ中座を願はうではござりませぬか」と相生は口を歪めて云ふ

「よい處へれ氣が付かれた、茶事の庭へ入ると、うの臭ひが袖に染む、耻知らずのれ遊様と、同じれ席に列つてはさもしいれ心が感染ろうも知れませぬで、さらば此まゝれ中座を願ひませうの」と此一味は傍若無人なり、あはや等しく坐を起たんとす

「皆様、れ待ちなされませ、暫くれ待ちなされませ」とれ道は血を吐く如き聲『私一人の爲め、皆様に御苦勞掛けてはなりませぬ、御佳例のれ歌合せに傷けては爲りませぬ、私れ中座を願ひまする、れ聞き届け下さりませ」

「こりや斯うありさうな事ぢや」と澤野は得意顔に「御前様へは私かられ執成致し置く、れ中座なされ」

「はつとは云へどれ道は急にも立ち難ねて、平伏したる身を慄はせぬ

「早う退らせ、きり〳〵と退らせいの」澤野は嚙み付く如く云ふ、れ道は半顔を擡げて國尾の前に手を支きぬ、鬢は亂れ、頰の色は褪せて、涙潸々と落ち來る



東京電報

▲**新内閣と豫算**　明年度豫算編成期漸く切迫しつゝあるを以て現内閣各省に於ては夫れ／＼豫算の調査に着手せるが財政の根本方針に付ては新内閣に於て桂内閣の方針を全然踏襲す可きか若くは其一部に變更を加へ新施設を行ふ可きか未だ方針決定さるものなければ各省所管の既定事業に關するものは格別とし新規計畫に屬するものに至つては財政方針の決定を待つて着手さる可しと云ふ

▲**内田外相歸期**　内田新任外務大臣は本月二十一日華盛頓出發しシアトルに至り同地出帆の郵船阿波丸に搭乘し十月二十六日歸朝の旨其筋に電報ありたり

▲**寺内總督歸期**　寺内總督は來る二十日頃東京出發歸任の途に就くべし

▲**總督沿岸巡視**　寺内總督は歸任の途次馬關より光濟丸に搭乘元山、清津の北鮮方面群山、木浦の南方沿岸を巡視する事に決定せり

▲**下瀬博士逝去**　下瀬火藥の發明家として世界に其名を知られたる工學博士下瀬雅允氏は遂に七日夜病氣療養其効なく逝去したり

▲**新内閣と港灣調査**　今回の政變に伴ひ港灣調査會委員は勢ひ更迭あるべく目下其人撰中なるが會長平田前内相辭任したるを以て原内相當然會長となるべし又石本新六男は大臣となりしを以て辭任し岡次官之に代り野村技監は平井副總裁に委員を讓り一木次官は辭任したるを以て床次次官其後を襲ふべし

▲**宮中正辰祭**　六日は今上天皇第三の皇女故滋宮内親王殿下（明治十六年九月六日薨去）の御正辰祭に付き主任掌典以下掌典補出仕午前九時御正辰祭を嚴かに行はせられたり

▲**渡邊少將陞進**　歩兵第十五聯隊長陸軍歩兵大佐渡邊湊氏は陸軍少將に昇任豫備仰付けられたり

▲**下瀬博士の光榮**　下瀬雅允氏病氣危篤の報天聽に達するや特旨を以て勳二等に昇敍し旭日重光章を下賜されたり

雜報

●**教育令と附屬法規**　過般發布されたる教育令の實施期は既報の如く多分十一月一日頃より施行さるべきか該令に伴ふ附屬法規は主として各學校の教授課目及規程等を定むるものにして此規程は別段[illegible]の必要なく總督に於て[illegible]他の官立學校等と關[illegible]制局の審議を要する[illegible]に過ぎざれば拓殖[illegible]を生し居るとは一の事なり尚法學校、工[illegible]校等は本教育令の第[illegible]別に他の學校とに關[illegible]條文により本教育令[illegible]に學務局の管掌を離[illegible]と云ふ

●**濟生院の事業**　京城[illegible]孤兒院の孤兒九十一[illegible]一日より事業に着手[illegible]の事業を聞くに先づ[illegible]十一名中六名の病者[illegible]五才以上廿五才のも[illegible]等として自活の途を[illegible]は東亞煙草會社なり[illegible]せしむべく處理し尚[illegible]を得ば盲啞教育を開[illegible]を設立する筈なるが[illegible]は總に五十萬圓の恩[illegible]十四萬圓とあり万般[illegible]慈惠病院の所在地に[illegible]る計畫なりと云ふ

●**軍司令官披露宴**　上田軍司令官は豫定[illegible]時より山縣政務總監[illegible]官其他重なる文武官[illegible]僚員五百餘名を龍山[illegible]饗宴を張りたり各種[illegible]て後七時食堂開始司[illegible]意味の挨拶を爲した[illegible]上田は今回朝鮮駐[illegible]位は態々停車場に[illegible]を拜し四日着任し[illegible]に來訪を辱ふした[illegible]て未だ一々御答禮[illegible]以て今晩は聊か粗[illegible]つゝ今後の御懇情を[illegible]宴を張りし次第な[illegible]ひなく御來臨を辱[illegible]して感謝すと述べ[illegible]擧げて各位の御健[illegible]と述べ三鞭の盃を擧[illegible]務總監は來賓を代表[illegible]令官の健康を祝し新[illegible]歡を盡して散會し[illegible]

●**鮮人貯金趨勢**　[illegible]の我郵便貯金に信賴[illegible]貯金額非常に增加し[illegible]一萬七千二百二十六圓[illegible]りしが四十三年度には[illegible]五十三錢八厘に增加[illegible]穩なるが右は昨年[illegible]りたるものを貯金せし[illegible]分貯蓄觀念を高めし[illegible]其甚しく增加したる[illegible]割以上に達したるもの[illegible]勞働者の多き場所は從て貯金も增加しつゝありと

●**天日鹽生產額**　[illegible]

●**電力調査開始**　[illegible]

●**水害と損害高**　[illegible]

●**湖南線工事**　[illegible]

●**貿易と移入超**　[illegible]韓國時代の金銀貨を內地に輸送して新貨[illegible]在り金銀地金の出入と比[illegible]にするを以て假りに之を[illegible]觀察するも尙は貿易總額[illegible]十八萬餘圓にして前年同[illegible]七万餘圓即ち三割八分の[illegible]に至れり之を表示すれば左の如し

	四年上半期	四三年上半期
[illegible]	一〇、六七〇、〇四〇	八、五三三、一五〇
[illegible]	二四、八六三、九五六	一六、一四八、九〇二
[illegible]	四、四三三、三九四	四、二三四、八六二
[illegible]	一八、六三五	二、五四四
[illegible]	四、四五二、〇一九	四、二三〇、四六八
[illegible]	三、二五七、四五三	一四二、五二〇
[illegible]	四、二五八、四五六	九三六、一二三
[illegible]	七、五二五、九〇八	一、〇七八、六五一
[illegible]	一〇、六八一、一六〇	四、一五〇、〇三五

●**圜丘壇公園**　許可申請　既報[illegible]にては京城府廳と協定[illegible]公園となすの計畫あり當[illegible]に對し許可方申請書を提[illegible]方朝鮮人側の代表者より申請書を提出すべしと

●**移民應募數**　東拓移[illegible]募者は豫定の數を超過し[illegible]なりたるが右は勿論撰拔[illegible]全部の完了は本月末なるべし

●**取引所の計畫其後**　豫て[illegible]取引所設立の件に付ては實[illegible]し發起人として有力[illegible]網羅するに至りしかば來[illegible]起人會を開き創立委員を[illegible]許可申請をなす筈なり[illegible]をしては資本金を五十萬[illegible]取引目的物は米穀、有價[illegible]綿布、綿糸の五種を定[illegible]

●**伊藤公銅像**　神戶市安養寺山頂[illegible]べき伊藤公銅像は此程東[illegible]く成り五日神戶に送り來[illegible]の藤公銅像建設委員等は[illegible]より市役所に會合して種[illegible]愈七日を以て上臺石に建[illegible]決したり除幕式は豫定の[illegible]即ち公の遭難日に施行の[illegible]の高さ一丈臺石を併せて[illegible]

●**本年度の建築工事**　總督府營[illegible]導する各種の建築工事中[illegible]る分は麻浦の監獄工事を[illegible]校、總督府醫院の增築及[illegible]裁判所の新築等なりしが[illegible]工を見中には既に竣成し[illegible]其他には道廳長官及事務[illegible]するもの二三個所あるも[illegible]定中にして不日決定すべ[illegible]れにしては本年度の建築工[illegible]したる次第なりと云ふ

●**朝鮮郵船發起會**　朝鮮郵船會社第一回發起人會は先日釜山に開會し創立事務所を京城に開設することを決議したるが近く第二回發起會を京城に開會する筈にて今回は比較的多數の發起人來會すべしと云ふ

●**砂防殖林成績**　京畿道にては今春國有山林へ砂防殖林を爲したるが其成績槪して良好なり殊に禿山には芝を植付而して赤松の二年苗木四十二萬本を植樹したるに百本中少なきは二本多きも十本內外の枯死に過ぎず尙以前植林の個所若くは草地へ對し赤松の四年苗木を補植（三十四萬本）したるに苗木の惡しかりし爲成績槪して不良にて多きは百本中二十四五本の枯死を生せりと

●**八月中仁川驛收入**　八月中に於ける鐵道局仁川驛に於ける營業統計は乘車人員四千九百十七人降車人員四九六十八人停車場入場人員八百九十二人乘車賃金五千八百七十三圓三十二錢發送手小荷物斤量三萬六千九百三十九斤到着小荷物斤量六萬四百四斤發送手小荷物賃金六千四百七十七圓三十六錢發送貨物噸數一万七百六十八噸到着貨物噸數千六百二十八噸發送貨物賃金一萬五千八百五十三圓十六錢發送貨物手數料二千九百二十一圓九錢なりと

●**京城と石炭の需要**　朝鮮に輸移入する石炭は大部分九州炭にて其の中筑豐炭勢力を占め撫順炭の如きは鐵道を除きては殆んど需要なく無煙炭も避して買口好き方には非ざるが要するに筑豐炭は重に塊炭にして撫順及び無煙炭は粉炭多きがためなるべく尤も無煙炭は一般外人及び支那人に歡迎せられ昨今京城丈にて一ヶ月約四十噸消費され居るが筑豐炭は昨今同じく京城市中丈にて一ヶ月五百噸を消費し冬季にいたれば三千噸に上る由而して無煙炭は目下の相場九圓五六十錢九州炭は十圓五六十錢撫順炭は九圓五十錢なりといふ尙平壤無煙炭は昨今迄は一手販賣に限りたるも鑛業所官制改革以來何人にも販賣することを許したれは將來は追々勢力を占むるにいたるべしと因に昨今京城市中に於て石炭商を營むものは九軒ありといふ

●**德壽宮の盛宴**　既報の如く李王殿下には八日は恰も六旬の誕辰に當らせらるるを以て李王同妃兩殿下を始め各貴族參賀を受け正午より石造殿にて盛宴を張られたり

●**龍山の戶口增加**　昨年七月京龍合併前より龍山戶口は漸次減少しつゝありしが去る八月は意外にも戶口增加し八月末現在の戶口は戶數三千五百七十八戶、人口一萬二千九百四十三人にして之れを前月に比すれは戶數九十五戶、人口二百四十七人を增加せり

●**連絡船客**　八月中に於ける關釜連絡船客は乘船一等百三十五人二等七百三十七人三等三千三百九人計四千百九十五人降船一等百三十六人二等七百八十七人三等三千四百八十七人計四千四百二十三人にして差引朝鮮在留者は二百二十八人となる譯なり

●**載寧附近の水害**　七日午後三時發電に依れば黃海道載寧より鳳山、安岳及信州に境せる九ヶ郡一帶は八九尺浸水して昨七日午後三時頃迄で減水せず人民は山又は堤坊に避難して慘狀を極め載寧は西圖との交通全部杜絕せりと

●**阿蘇艦上午餐會**　仁川碇泊中の練習艦隊旗艦阿蘇艦上に於ては七日正午より午餐會を催し山縣政務總監、石塚長官、國分入事局長、荒井長官、楢垣道長官、中山大佐は當日午前九時四十三分仁川驛着直ちに海上に舟を浮べて暫時魚釣の興を貪りたる後艦上の午餐會に臨み午後四時十分仁川發列車にて歸京せり

●群山通信　（愛水生）

▲去年の夏以來今にも出來る出來ると噂ありし當港の電燈會社も近來沓として何の音沙汰も聞かなくなつた發起人諸氏は何をして居るだろうか鐵道の開通も僅に數ヶ月後に迫つて居る今日當港の市街は不相變十八世紀式で電燈一ツ點せないとは開港場でありながら實に不體裁極まるではないか心ある人の目より見れは則ち當港人士は港民の福利を增進し而して市の改良發展を計るに就て冷淡なりと思はれ又一面に於て當港人士は公共的若しくは協同的精神に乏しとせらるゝも決して無理ではあるまい▲回顧すれは去年仁川電燈會社より當港へ電燈會社設立に就て共同經營の申込を受け一際何故區々たる感情的利害の念に驅られて之を贊せざりしか若し其際協議整ひ設立出來しものとすれは此頃は早市內各所に明煌々たる電燈を見るを得しならん大凡事は何事に限らず宜しく大局より打算して之を處置せさる可らず例ひ手段に於て多少不利の點ありとするも其終局に於て我に利便ありとすれは一時の不利を忍ひて勢に從は事ろ賢なる行爲ではあるまいか由來群山人士は共同一致の精神乏しく大局を觀るの明なし豈に戒めずして可ならんやである▲當港に支局を有する全州新報三南新報及京城日報の三新聞は今春支局設置以來相應に讀者も出來當時（群山日報は休刊中の處）目下三支局鼎立の形を爲して一奇觀を呈し居れるが今回群山日報も全鮮通長絡に讀き不進新聞を發行することゝなりたれば上記の三支局は勢ひ打撃を被るに至るべきを以て警戒怠なく進んで大に地盤の開拓に努め瞬々裡に競爭を開始し（全州新報は既に停刊なり）互に鎬を削つて居る今其働き振りを見れは全州新報は落付拂ひ洒々落々として競爭には余り熱せざるが如きも若し夫れ三南新報及京城日報に至ては孰れも草創の際に屬せることとて旗鼓堂陣勢を張り後者は百萬の雄勢人は强く馬は肚に其動くや電光石火の如く攻むれは取り戰へは勝つの槪あつて武者振り如何にも勇ましく前者は遠々實々山に據り野に伏し鬼神不測の機を弄し以て奇勝を制せんとするもの〻如く各一隅に割據して中原の鹿を爭ふて居るけれとも今日の處未だ形勢混沌軍配は何れに揚けることも出來ないこと〻死に角暫らくが見物である（九月六日發）

●**山縣總監の下仁**　別項の如く八日仁川碇泊中の練習艦隊旗艦阿蘇に於て午餐會を催すに付き山縣政務總監は中山大佐驛波通譯官を隨へ午前八時發列車にて下仁せり

●**獨逸外交官來京**　在東京獨逸大使館書記官ラビン氏は朝鮮視察の爲め八日午前八時四十五分南大門驛着入京獨逸領事館に入れり

●**學校請負契約成る**　京城民團の學校新築請負に就き龍山櫻井の兩校は既報の如く契約濟みたれ共鐘路の分は請負者なかりし爲理事者に於て奔走中入には愈々契約を結び來る二十五日頃より工事に着手する由

●**明石少將の別宴**　明石少將は今回香港へ轉任する佛國副領事を八日官邸に招きて別宴を張れりと

●**練習艦水兵の入京**　練習艦乘組水兵二百余名の一行は八日午前九時南大門驛着入京景福宮にて當地愛國婦人會より茶菓の饗應あり午後より昌德宮觀覽の上午後四時當地發歸艦したり

●**丹羽所長の歸京**　農商工部の囑託を受け滯京麻布の調査をなし居りし京畿道物產陳列所長の丹羽圭介氏は七日夜歸京したり

●**移民應募團員視察**　既報東拓移民の募集に應じたる德島縣阿波郡內寺島に於ける青年團十名の內の二三のものは移住地視察の爲め一兩日中に來鮮すべしといふ

●**鮮人有志の寄贈**　慶北盈德郡邑內洪範約外一名は內地人の設立に係る組合學校の開校式擧行に際し金品の寄贈をなせりと

●**廣州の共濟事業**　京畿道廣州郡九川面の共濟事業は其後益々盛況を極め加入者目下九十六名穀の醵出高九石六斗に及べりと

來人私人

▲中山成太郎（書記官）六日自京釜歸任
▲藤原正文（書記官）六日歸任
▲古賀廉造（代議士）七日釜山行
▲丹羽圭介（陳列所長）同釜山行
▲島村鶴太郎（陸軍中佐）同鎭南浦行
▲永島雄（控訴院長）同平壤行
▲藤永周（煉瓦所員）同平壤行
▲中村龍藏（辯護士）同天長嶺へ
▲橋本二郎（檢事）六日歸任
▲岡今朝雄（事務官）同歸任
▲三本武重（鐵道局營業課長）七日歸任
▲安藤主計　七日來京

仁川港出入船舶

▲漢城丸　九日大阪より入港
▲酒田丸　同　橫濱より入港
▲肥前丸　同鎭南浦へ向出港
▲漢城丸　同　大連へ向出港
▲秀吉丸　同　大阪へ向出港
▲群山丸　同　同

▲京城手形交換高▼

月日	金高	枚數
九月八日	一〇六、〇二九、三一〇	五〇九

▲治外法權▼

總督政治は不變だ、寺內總督施政の方針來の通りだと泣出しソウな聲で御用紙が吹聽を始めた、イヤ御心中は御察し申す、併し何しろ根が牢固の浮沈に關する一大事、御託宣ご尤と聞流しには出來ぬ▲御用紙の著書欄に因ると寺內の御前は左の如く語つたソウだ、曰く『朝鮮總督は素より內閣總理大臣の統率の下に屬するを以て、西園寺首相にして若し余の政策と意見を異にせば、首相は其職權により、是を貫徹するに遲疑せざるべし、されど今日迄何等其事なきを以て見れは首相も余と意見を一にせらるゝ事と確信する也』▲若しも著書欄の書せしところを眞とすれば、寺內ともあろう人が實に詰らぬことを云つたものだ、見玉へ新內閣は出來てヤット十日許りではないか、首相西園寺が其職權により立憲的施政を總督へ迫るのは是からの事だ▲著書欄子た曰く、余（寺內）も愈々總督專任となりたれば朝鮮の經營に專心從事すべく、御諸般の施設は素より時宜に應じて其宜しきを制せざるべからず、此事に關しては余も既に考慮中に屬するものあり云々▲オチ之れで見ると流石の寺內御前も政治を施すに時と處とを眼中に置かねばならぬとが判つた、で、從來の何かの一天張りではモーダメだと見てとつた彼れは今後の施設に付て目下考慮中だ▲頑固の樣に見ねてもソコが夫れフランス式陸軍を捨てゝドイツ式陸軍に與みせる程融通の利く寺內の御前、何條政友會の天下に自家の主張を牢守すべき、今頃は函根に在つてハヤ施政方針の變改に就て考へてゴ座る



愛妾傳(一)

満商杏花春氏愛妾

永見ゆき子(一)

當地長谷川町二丁目に杏花春と云ふ清國人の金持のある事は殆んど知らぬ人はなかろう金貸と貸家とが本業で傍ら洋雜貨食料品を扱ふて居て安東縣及平壌の兩支店は雜貨食料品を商はして居る、並に同人の愛妾に永田ゆきと云ふ當年二十八になる美人がある、彼れは長崎縣島原町と云ふ世界に名高き賣笑婦の産地に生れた、彼れの實家は農家であつたが稼いで食うのは職でも食うと云ふ調子で仕事は怠機ともせず未肩揚げの取れぬ十四五の頃から近所隣りの誰れ彼れと巫山戯て居る内に別して深く馴れ染めたのが板垣某と云ふ大工さん併しれゆきは決して此の一人を守つて居る程に融通の利かない女ではない夫れは夫れ此れは此れと常に三四人の情夫を操つて居るので正直な板垣は斬るの殺すのと騒ぎ回つた事も度々であつた、然るに彼れは十六歳の六月頃から何となく胸が惡く而して酸の物好みをする様になつたのを見て取つた母親は此れ迄とても我子の不身持を見聞く毎に隨分叱りも責めもしたが豈夫此れ程とは思はなかつたので一旦は怒つて打ちもしたが打ち忘て〻は置けないので醫師に見せると正しく妊娠敵手はと問へば大工の板垣だと云ふので同人に向つてれゆきを女房に貰つてと申込むと前際の次第で『俺一人ではあるまいし』と空嘯いて取り合はぬのを百方應して承知させ七月の上旬正式に結婚式を揚げて後は浮氣らしい噂もなく睦まじく明く暮して其の年の十一月下旬無難の紐を解いて産み落したのが板垣に瓜二つの男の子、此の芽出度さに二人の間は一層睦まじく其子の成長を樂みに其の働も暮れてたゆきに十七の春を迎へた、此の儘行けば何事もないのだが前にも述べた如うなゆきは仕事が何より嫌ひと云ふのだ板垣は大工だが傍ら農業もやつて居るので手傳はねばには行かないけれども夫れが何よりの嫌ひなので腹が痛いの頭が疼くのと云つて仕事を手傳はうとゝせぬのみか遂に斯んな土臭い田舎に居て此様な勞をするより一層の事他國へ出て面白可笑暮す方が何れ程幸福だか知れないと淺慮にも決心して明治三十五年の五月即ち兒を産んでから七ケ月目に二世も三世もと言ひ交した**良人**も**可愛い乳呑兒**も**振り棄**て〻五十餘圓を引つ浚らつて**長崎港**から**便船**に**乘**じて**満洲大連**に向けて出奔した。

●子を持つ親に注意

▽御量の子守を戒めよ 南大門尋常高等小學校生徒堤ふみ子井上だか子廣安きさ子外數名學校よりの歸途南大門通り一丁目歌舞伎座入口に四才位の女兒が母さん〜〜と泣き迷ひ居しより南部署へ連れ行きたるに旭町一丁目安藤病院花井某氏の娘にして韓童の子守が不注意の爲め右の始末と知れ厚く禮を述べて引き取りたり

●婦女誘拐は誤認

原籍大分縣速見郡別府町二百五十番地平民仙太郎弟當時龍山大島町三十六番戸居住佐藤柳吉(三)は先般婦女誘拐犯として龍山警察へ拘引せられ取調中の處此程事實判明し放免せられたり前記柳吉實兄仙太郎は別府町にて信用ある屈指の旅館にして柳吉は家兄の許に手傳ひ居りしが金錢上の事より紛紜を生じ獨立の職業を營まんと欲し佐藤ヨシ(二)小野ミヨシ(十九)志和久とサヨ(二〇)の三人を引連れ龍山へ來り前記の處に居を定め營旅館又は下宿業などを營まんと計畫中不圖警察署より不審の者と認定せられ拘引せられたる次第にて右の三名の婦女も自ら進んで渡鮮せしものゝ由にて其中佐藤ヨシは父兄の承諾を得ざる爲め此程内地へ歸り他二人は京城市内に雇はれ居る由にて何等警察の爲め誘拐せし抔の具体的證據なきより放免せられたる次第なりと尚柳吉の拘引と同時に柳吉の義兄此事に驚き急遽渡鮮し來りて目下柳吉方に滯在し居りと

●借物の命で强盗

京城東部宮洞生れ金□元(二〇)は强盜罪を犯し春川憲兵に捕はれ逃走後春川支部にて强盜犯並に囚徒逃走罪として缺席の儘絞刑に處せられたるが逃走中又〜强盜罪を犯し其の筋に擒れ金基石と僞名し京城監獄に入監中前犯罪發覺せしを以て近く京城地方裁判所に於て公判開廷せらる可しと

●囚人の舊悪露顯

長崎縣島原町大字中原九十九番戸當時永登浦監獄在監人小田駒三郎(三二)大坂府三島郡島司村七十二番戸當時同在監人前川作治郎(三三)は何れも元朝鮮駐箚憲兵隊附の憲兵にして京城憲兵分隊在勤中官名を濫用して恐喝取財をなし京城地方裁判所に於て有罪の判決を受け控訴せしも棄却せられ目下服役中なるが憲兵免職后龍度直作(四〇)と共謀して鮮人數名と共に日韓運送會社を創立し數十名より出資せしめたる金千餘圓を横領したる事發覺し此の頃豫審終決し近く京城地方裁判所に於て公判開廷せらる可し

●短氣な佐五郎

七日午後九時半頃南部署警察官が太平町一丁目を巡回中同町百十六番戸小林佐五郎(三六)方前に數十人集り喧嘩を爲し居るより取調たるに太平町六十七番戸ノ六白德根(三二)が友人二三人と共に酒癖にて飲酒し小林方前にて計算の相談中小林は白德根に突き當り互に爭論の末小林は下駄を以て白德根を擲り又〜棍棒を持ち來り頭部其の他を毆打負傷せしめたるなりと判明し本署に引致され取調中

●東上の米を覗つて

西部新門外冷井洞二十一統一戸金仁植(三〇)は午後一時頃本町一丁目林雜貨商店雇人李弼が荷車に白米一斗入袋を積み得意先に持ち行く途中本町七丁目街路に車を置き他家に一寸立ち寄りたる間に窃取し南部署に捕はれ目下取調中

●素見代二十八錢

旭町三丁目二十六番戸大工職矢野富三郎(二八)は七日午後十一時頃新町遊廓派出所南隣西洋料理屋に至り素見したるより女に遊興を勸められ拒絶せんとする際硝子戸に突き當り打ち破りたりとて派出所に訴へられ損害金二十五錢にて事濟み

●仁川の飲食物棄却數

七月一日より八月三十一日まで仁川府管内飲食店に於ける不良飲食物の棄却せられ數量はラムネ四百九十三本、サイダー二百十九本、葡萄酒一本、香氣水百十四本、蜜柑水四百二十本、林檎七千百〇七個、杏二百九十九個、桃八百三十六個、眞瓜三十五個、駄菓子六百三十八個等也

●清鮮人の喧嘩

長谷川町二丁目居住清國人梁寅(三四)慕全鐸(十七)の二名は鮮人金淳祚(二五)と金錢上の事より爭論を生じ金淳祚を毆打負傷せしめたるも輕傷なるより說諭放免

●一富士樓主は無事

去四日仁川一富士樓主松永熊太郎は八尾島沖に魚釣りに行きしまゝ折からの暴風雨にて歸途を失ひしか六日無事歸宅せり

▲大和新地を併せたる新町の樓屋は一寸目覺しい様な感じがする▲日露戰爭の眞最中合資組織で今の貴楽樓その當時は土地の名に因んで命けた双林館と云ふのが只一軒開業したのみであつたが如何なる事情からか解散した、伏姫さんは乃に伏して八犬士を世に出したとやら云ふが此の双林館は其の上を行つて井門、月下(日曜)、松葉(清楽樓)、稻山(玉の江)南山(金獅)第一、同支店、京城、大黒屋(玉屋)皆春、清月の十一軒を生んだ、而して本家更らに彼の大和新地を拓いて今の繁昌とは成つたが遊廓としての風致と云ふものを心掛けぬ如だ▲一昨年道の兩側へ櫻を植ゑましたが折られたり枯れたりしましたので▲と仰云るか然らば折られない樣に枯れない樣に爲れたら何うか櫻は一昨年でなければ植ゑられませんかね▲と申す次第でなくば猶更でげしよう、ねね、夫れも櫻と限つた次第はない桃紅李白柳の緑何でも好いのだ▲現に角廓の入口で赤い軒燈に巾を利かさして置く樣では風致も何もありやせんがな(一郎雀●●●の見)

●仁川紅筆だより

鶴ノ福太郎は京城古市町山口酉八さん方に居る姉のれなつさんの病氣看護に出張中▲券番の合邦は彼の好きさんと京城は不知火旅館に御樂み▲一富士の政尾は現は仁川一の美人だとの大評判で大流行だが彼の顏に最少し愛嬌が有たら大したものだと賣發つた奴の落口▲券番の〆太が賣行の惡いのは名にし負ふ〆太で御客が深入せぬからだとの噂 小〆位に改名したらドちやろかい(仁川の蛤)

井門本店の卅分

白面子

藝妓の半生を掲載してる當時は先方で何も厭な顏をするし此方も氣の所爲か何んとなく眠れる氣味もあるし且つは拙者天性他人の厭な顏を見ることは好かんので御無沙汰をして居たが夫れも一先づ休暇と決した今日其心配もあるまいと六日の八時半井門本店に温突の女將さんを訪ねた、相變らず丸々と肥ねて居る『夏痩せもしないで壯健な事』と扇をハタ〜〜云はせる『夫れに引き換へ貴君の痩せになつた事』と來る『始終食べ物に不自由勝で』とも有りませうが一つは御心配の過ぎる所爲でね『何んて擬な生れ性やら他人樣の事でも他事と思へないんで』と亭ふ噂は事實らしい、自家の妓達も大變な世話になりました相で『イヤれ迄では痛み入るソレハコレハモ道樂なんだから……』『心配して下すつては困りますよモウ御飯は濟んだのですから』『如何に食べ物が御不自由でもねね』『時に景氣は何うですい』話頭は一轉した、女將は少さい溜息を吐いてカラキウれ話にならない花柳界の淋しさをシンミリとした調子で話して居る所へ食道樂から蝶々に電話が掛つた何やら嬉し相に笑つて居る、此時女將は思ひ出した如に『貴君は蝶々の身の上を掘くつて居らつしやるつて』と訊く『いゝた事もあるがモウ止めた』と正直に答へると女將は本氣になつて『辻屋さんと關係が有る如に聞きでしようが全然事實無根です誰かの仲傷で蝶々は關ひませんが先方が御迷惑ですワ』と云ふ『蝶々の半生、探つては見たが酷らんから止めたのだから何方にしても可いぢやないか併大上友太郎さんは何うですな』と白ばくれる『ツ、ツ、夫れは三年も前の事で』と頗る陣立が亂れる『サウは鶴智府の藤原さんは情人かな』女將の軍容は滅茶〜〜に崩れる『ソレモですね、ソレは他から聞きますけど心當りがないんです』と苦しき息をホツと吐いた所へ老主人が總入歯を突き出して笑ひ作ら入つて來る話は支店に談替ねした千代子の事に移る聞けは實家は料理屋で藝妓の七八名も置いて居るが大失敗をしたとかで可哀相にと云ふ長居をしては邪魔にならうと歸り掛けに藝妓部屋を覗く鶴吉、奴、妻枝等は揃ひも揃つて消息文を認めて居る仲居部屋では新參の房子が熱心に殺絶をして居る玄關に出ると譯讀輸三台『主や誰れ』と見上ぐれば近日支店から突き出され樣と云ふ房枝に君枝に支店の女將、何にしに來たかと云へば『遊びに』と云ふ左樣云はれて見ると喧嘩に來る筈はない哩、門の所で京日の柳子と摺れ違ひに左樣なら、樓上を仰げば政子の太い聲が婦風器に掃れて聞ゆる(午後九時)

●みかどの開業

仁川宮町に開業したる西洋料理店みかど店主は市嶋ゆき(十三)と云ひ二十年來西洋人に隨て料理方法を研究したる腕前にて先年東都にて小笠原伯爵家に雇はれ中非常なる賞讃を與へられしとか一時大阪にて西洋料理店を開業し居りしか今回同地知人の勸めにて宮町通りに開業したる次第なりと庖丁の腕前は一度御試驗しあらるべしと云ふ

●演藝だより

▲壽座 好人氣なる片岡鶴之助一行は九日より十一日迄三日間の續き物十八番中の狂言『宮本武藏』を演ずべしと

▲龍山座 初日以來大入續きの桃中軒雲柳一行九日の讀物は花園第の新講談『青年立志』『軍事探偵』雲柳の『赤垣源藏』『不破數右衛門』等なりと

▲歌舞伎座 活動寫眞及びキネオラマ

●深見酒店の大擴張

仁川に於ける酒造界の最も古き歴史を有する宮町三丁目深見酒店にては(誠印)發賣以來日淺きに係らず大好評を博し業務擴張の一新紀元として松坂町二丁目に工場及店舗新築中にて近く移轉すべしと云ふ

●新見藥房の移轉

元仁川新町二丁目にありし同店にては開業七星霜を經て大發展の機運に會し同町一、二、三丁目の四ツ角に移轉し尚大勉强をなすと云ふ



▲中券にしても京城券にしても電話口へ出る者に依つて頗る横柄な營業使ひをする時がある電話だからとて身分と職業を忘れた受け答ねは慎むが宜しい(忠告生)▲京城で眞實に美味い壽麥を食はせる家は何所でしよう(食道樂)▲料理屋で料理の自慢しない家もないから餘り自慢されると不味くなるのだ(不快生)▲泥峴街が狹隘にして交通不便なるを以て市區改正を遂げ交通の便利を圖り市の發達を期すべきは目下の大問題なるが此の狹隘なる街路に子供を遊戲せしめ或は幼兒を保護者手を取らずして步行せしめ又は店員などがボンヤリ竹立せるなどは實に交通上危險にして妨害の一である又荷車の馬車に長きものも制限されたいと思ふ(一布衣)▲用度とか會計とか云ふものは程齒と胃の丈夫なるのは少なからう紙は食う材木は咬る金物は嚙み碎く煉瓦は舐める何んでもかでも消化して終うそうだ(痛壽夫)▲某長官官邸の後園に二基の石像があるがアノ出所を調べたら長官邸へ入る以前の經歷に奇妙な事がある如に直覺せられる(通行人)▲僕も左樣云ふ感じのした事があつた某所を發掘して得た高麗燒ゝ誰れが掘つて古物商の誰に賣つた爲めに罰せられたと迄は判るが肝心の高麗燒が何うなつたかは毎時不明だと、云ふのは買つた人が名譽あるなので名を公にせぬのか又は外に都合があるのかだらうが奇怪な事だ▲だから僕は斯う思ふ今其の多くは贓品ではあるまいか▲買つた人は疑まれたので罪はないが器物は盜まれたもので珍藏するに足らぬ▲